

## 多摩府中保健所感染症週報

平成30年 第34週 (8月20日~8月26日)



## 今週の傾向

★RSウイルス感染症の報告数は減少傾向にあります。

★手足口病、ヘルパンギーナの報告数が増加傾向ですが、例年より低めの水準です。

★手洗い・咳エチケットを行い、集団生活では飛沫感染・接触感染に注意しましょう。

## ● 定点把握対象疾患・定点医療機関当たりの報告数

定点	疾患名	多摩府中保健所管内		東京都内	
		第33週	第34週	第33週	第34週
インフルエンザ	インフルエンザ	-	-	0.03	0.01
小児科	RSウイルス感染症	1.47	0.94	1.39	1.52
	咽頭結膜熱	0.13	0.11	0.22	0.24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.67	1.56	0.89	1.27
	感染性胃腸炎	2.27	2.61	2.44	3.35
	水痘	0.27	0.17	0.12	0.23
	手足口病	0.60	1.17	0.70	0.81
	伝染性紅斑	0.40	0.89	0.61	1.11
	突発性発しん	0.13	0.78	0.31	0.51
	ヘルパンギーナ	1.13	2.00	1.49	1.64
	流行性耳下腺炎	-	-	0.03	0.05
	不明発しん症	-	0.33	0.07	0.16
	川崎病	-	0.06	0.01	0.03
眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	0.03
	流行性角結膜炎	0.33	0.67	0.45	1.39
基幹	細菌性髄膜炎	0.67	-	0.08	-
	無菌性髄膜炎	0.33	-	0.12	-
	マイコプラズマ肺炎	0.33	0.33	0.20	0.20
	クラミジア肺炎 (オウム病除く)	0.33	-	0.04	-
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-
	インフルエンザ (入院)	-	0.33	-	0.04

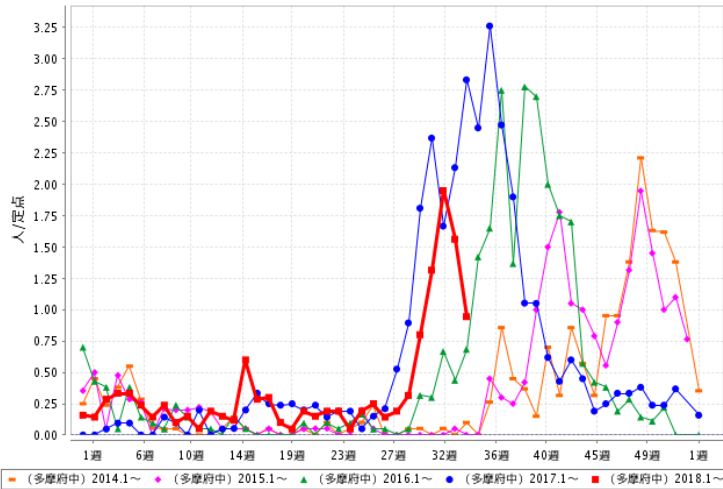
※平成30年1月第1週より百日咳が定点把握対象疾患から全数把握疾患に変更されました。

今週の状況 …過去 5 年間の比較

赤線は 2018 年第 34 週までの定点当たりの報告数

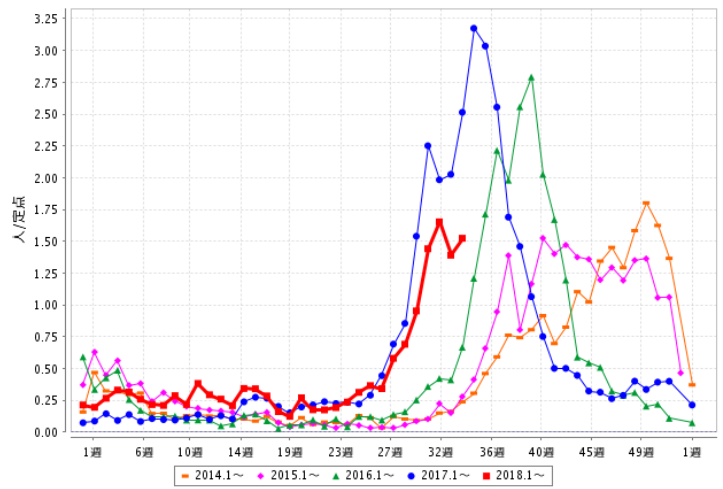
●RS ウイルス感染症・・・減少傾向ですが、都内では引き続き高めの水準です。

多摩府中保健所管内



©2002-2018 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

都内



©2002-2018 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

情報提供

百日咳 予防接種前の赤ちゃんへの感染に注意しましょう！

百日咳は、百日咳菌による感染症です。患者の咳やくしゃみなどの飛沫に含まれる細菌によって感染します。2018 年 1 月より国への全数報告疾患となり、8 月 19 日までに東京都で 845 例の報告がありました。

百日咳に罹患すると、風邪症状で始まり、徐々に咳の回数が増え、症状も激しくなります。

年齢が小さいほど典型的な症状が出現しないことも多く、無呼吸発作からチアノーゼになり、痙攣や呼吸停止等の重篤な状態になることもあり注意が必要です。

重症化しやすい予防接種前の乳幼児は、主に両親や同胞など、身近な人が感染源であることが多いため、**乳幼児がいる家庭は感染防止のための対策が必要です。**

有効な予防法は予防接種ですが、幼い子供がいる家族内で患者が発生した場合は、予防的に抗菌薬を投与することが推奨されています。**子どもの年齢に応じた咳エチケットを心がけましょう。**

※東京都感染症情報センター「WEB 感染症発生動向調査」を基に作成しています。

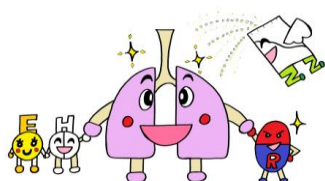
※定点把握対象疾患とは？：発生動向の把握が必要なもののうち、患者数が多数で、全数を把握する必要のないものです。感染症法第 14 条により、都道府県は「指定届出機関（定点医療機関）」を指定し、指定届出機関は、対象疾患について患者の発生状況を届け出ることになっています。

参考) 指定届出機関（定点医療機関）

インフルエンザ定点：管内 33 機関（都内 419） 小児科定点：管内 21 医療機関（都内 262）

眼科定点：管内 3 機関（都内 39）

基幹定点：管内 3 医療機関（都内 25）



多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策担当  
TEL : 042 (362) 2334 (代表)

検索 多摩府中 感染症週報